



丹波山村
地域おこし協力隊

協力隊卒業生の今とこれから



タバネット

TABANET.

丹波山村 地域おこし協力隊サポーターズ

5月8日、丹波山村役場で、丹波山村地域おこし協力隊サポーターズTABANET.（タバネット）のキックオフミーティングが開催されました。

丹波山村地域おこし協力隊のOB・OGを中心に構成するこの団体の目的は、地域おこし協力隊同士が活動時期、活動内容にかかわらず横のつながりを持ち、地域活性化のために蓄積した知識と経験を共有すること、そして継続的に協力隊員を受け入れるコミュニティの支援を行うことです。一人ひとりの協力隊員が持つ可能性を最大化し、村内外の発展に寄与できるように努めてまいります。

これまで丹波山村では40人が地域おこし協力隊として採用され、13人の方が引続き村に住所を置いています。このデータは、丹波山村が継続的に関わりを持つのに魅力的な場所であることを示しています。

地域おこし協力隊が地域に根ざして活動し、この地で生々と彼ら自身の人生を築くこと。それが、タバネットの目指すビジョンです。村民の皆様にもご理解と協力を頂き、活動を応援して頂きたいと存じます。



【タバネット会員】

会の目的に賛同し、入会した丹波山村地域おこし協力隊OB・OG

【タバネット団体役員】

代表 中平 正士

副代表 初田 登

監事 清水 岳人

理事 矢嶋 澄香

協談活志

きょうだんかつし

「協力」「対談」「活動」「志」の四つの要素を融合させたもので、元協力隊の現在の活動とその背後にある思いを伝えるシリーズです。



丹波山村集落支援員

NISHIYAMA HISAE

西山 寿恵

令和3年4月から令和6年3月まで地域おこし協力隊として活動。集落支援員として丹波山村に残り、丹波山村保育所と放課後子ども教室「丹波っこくらぶ」で活躍中

集落支援員は、村からの委嘱を受け、役場職員とも連携して、地域の巡回、状況把握等を行う地域の「目配り役」です。村で暮らす人が、地域の課題に目を向け、地域のあるべき姿についての話し合うことでより良い地域を形成できるよう、集落支援員がコーディネーターとなって支援します。

地域と共に育む信頼

地域おこし協力隊員を卒業した人に、今の暮らしと仕事についてインタビューする「協談活志」第一回は、集落支援員の西山寿恵さんです。

集落支援員になったきっかけは
西山 集落支援員を目指したわけではなく、丹波山での暮らしの中でここに残り、役に立ちたいと思った時にお話があったって、集落支援員になりました。

集落支援員としてのお仕事は
西山 協力隊時代と同じで「丹波っこくらぶ」での放課後支援活動と、保育所での保育補助です。

卒業後に不安はあったか

西山 丹波での生活が楽しかったから離れる選択はなかったです。気の合う仲間も居るし、実家も近いし、好きな山も近いし。必要としてくれる人が居ると思えたから心配は無かったです。集落支援員になったことは協力隊員時代の経験が活かされたからだと思います。私の周りの人を少しでも幸せに出来れば嬉しいです。



取材後記

地域おこし協力隊員としての任務は、単なる活動の成功にとどまらない深い意味を持っています。各隊員が持つ独自の目的と彼らが追求する着地点は多種多様であり、一括りに評価することはできません。重要なのは、地域の人々とどれだけ深い信頼関係を築けるかです。所縁のない土地で生活の基盤を築き、地域住民との信頼を深めることが、協力隊員にとって最大の課題であると言えるでしょう。

活動の成功・失敗に捉われず、地域に愛着を持ち続けること自体が、大きな価値につながると西山さんの言葉は教えてくれます。

協力隊員の役割は、単に地域の課題を解決することだけではなく、その地で根を下ろし、地域の一員として生活を共にすることにあるのではないのでしょうか。

